

第8回子どもとメディア全国フォーラム

# ネットが人類にもたらしたものの

～子どもの育つ権利・学ぶ権利を考える～

基調講演 池上彰！ネット社会を斬る！



2016年(平成28年)

1月23日 土

12:30開場

13:00～17:15

基調講演・トークセッション

参加費 3,000円

定員 800名

24日 日

9:15開場

9:30～15:30

リレートーク・分科会

参加費 2,000円

会場

福岡市立西市民センター

福岡市西区内浜1丁目4-39

TEL 092-891-7021



池上彰！  
ネット社会を斬る！  
基調講演

主催 NPO 法人 子どもとメディア

共催 公益社団法人 日本小児科医会 福岡市教育委員会

後援 福岡県 福岡市

(一部予定を含む)

朝日新聞社 西日本新聞社 毎日新聞社 読売新聞社 NHK福岡放送局、福岡県PTA連合会、福岡市PTA協議会、北九州市PTA協議会、福岡県公立高等学校PTA連合会、福岡県私学協会

# フォーラムの参加について

## STEP 1 参加の申込み 受付開始 2015年10月1日

### 専用紙による申し込み

「参加申込票」に記入の上、事務局まで FAX 送信してください。

### ホームページからの申し込み

子どもとメディアホームページ

<http://kmedia.main.jp>

フォーラムページ内の「参加お申込みフォーム」からお申し込みください。

お電話による受付は、いたしません。

## STEP 2 参加費のお支払い

申込受付確認のメールもしくは FAX が届きましたら  
お近くの郵便局又は銀行より参加費をお振り込みください。

**銀行振込** 福岡銀行 けやき通り支店 普通 395311  
特定非営利活動法人子どもとメディア  
代表理事 清川輝基  
※恐れ入りますが、振込手数料はご負担ください。

## STEP 3 入金確認をもって受付といたします

入金確認後、事務局より「参加受付票」をお送りいたします。  
(1月初旬発送予定) 入金後のキャンセルは受付けません。  
当日は、参加受付票を必ずお持ちください。資料との交換となります。

## STEP 4 フォーラム当日

**当日は「参加受付票」が必要になります。**  
受付票を必ず持参の上、会場へお越しください。

## 会場

### 福岡市立西市民センター

福岡市西区内浜1-4-39 TEL 092-891-7021



駐車場の台数に限りがあるため公共交通機関をご利用ください

地下鉄福岡空港駅 5分 地下鉄天神駅 13分 地下鉄姪浜駅

地下鉄姪浜駅から徒歩5分

## 参加申込票

### 第8回子どもとメディア全国フォーラム

## ネットが人類にもたらしたもの

～子どもの育つ権利・学ぶ権利を考える～

締め切り 2016年1月10日(日)

定員になり次第、締め切ります。

FAX 092-403-6262

お問い合わせは  
フォーラム  
専用メール

forum-8@kmedia.main.jp

名前	所属 <small>(団体・学校名など)</small>
フリガナ	
住所 〒□□□-□□□□	都道府県
tel.	fax.
e-mail.	

24日の分科会に参加の方は、ご希望 (A~D) をお選び下さい。

23日(土)	池上氏基調講演・トークセッション (13:00~17:15) 定員 800名	<input type="checkbox"/> 参加する	3,000円
	懇親会(19:00~21:00) アークホテルロイヤル福岡天神 ※池上氏は参加されません	<input type="checkbox"/> 参加する	5,000円
24日(日)	リレートーク(9:30~12:00) 定員 800名	<input type="checkbox"/> 参加する	2,000円
	分科会(13:00~15:30) 定員 各分科会 80名	<input type="checkbox"/> 参加する	
A スマホ時代の乳幼児の育て方を考える    B 小学生のメディア過剰接触へのアプローチ C 子どもの身体の発達を促めるメディア漬け    D 現実に起きるネットトラブルにどう対応するか		希望 ①( ) 分科会 ②( )	
※定員になり次第、締め切らせていただきます。    ※分科会の希望に沿えない場合には、ご連絡いたします。			参加費合計 円

参加申込み書は、1人1枚にてお申し込みください。

## NPO法人 子どもとメディア

お問い合わせ  
<http://kmedia.main.jp>  
TEL 092-724-6323  
〒810-0042 福岡市中央区赤坂 1-2-7-703  
e-mail: k-media@dolphin.ocn.ne.jp

## NPO法人 子どもとメディア

テレビ・ビデオ・ゲーム・ケータイ・パソコンなど、激変するメディア環境のなか、子どもたちが情報の洪水に流されることなく、主体的に向き合う力を育てていくことを目指して、子どもとメディアに関する実態調査・研究「ノーテレビチャレンジ」「メディア・リテラシー教育」の提案、啓発ビデオ「2歳まではテレビを消してみませんか?」「メディア漬けで壊れる子どもたち」の制作など、さまざまな提言をしています。

## 開催背景と目的

スマホやゲーム機などの電子メディアが子どもや若者、子育て中の若い親などに広がる中で、子どもの育ちにこれまでになかった異変が現れています。また、子どもの学習や学校教育への深刻な影響が指摘されています。

乳幼児を対象にしたスマホアプリやタブレットを使った子育て、親自身がネットに夢中で子どもにちゃんと向き合っていない状況が広がる中で、乳幼児の心身の発達や親子の愛着形成に重大な歪みや遅れが懸念されているのです。

一方、中高生の間では、ネットトラブルや犯罪に巻き込まれたり、長時間の使用で依存状態に陥ったり、生活リズムを大きく乱して不登校や引きこもりにつながったり、と様々な問題が全国的に多発しています。文部科学省や脳科学者の調査で子どもの学習面への負の影響も明確になりました。

こうした状況は、私たちに改めて次のような問いかけをしているように思えます。

『ネットは、人類に、とりわけ子ども・若者に何をもたらしたのか？』

私たちが、子どもとメディアの問題に取り組み始めて15年、この間、メディア機器は多様化、高機能化し、人々の暮らしの中でメディア接触の為に費やすお金と時間は急激に肥大化してきました。

今、子どもの最善の利益を守るためには、いわば“現代文明の副作用”ともいえるこうした状況を多角的に捉え、冷静に分析することで問題の本質を見抜き有効な対策を打ち出す必要があります。

本フォーラムが、そうした“賢い対応”を考える契機となることを願っています。

NPO 法人子どもとメディア代表理事 清川 輝基

## 23日 (土) 福岡市立西市民センター

開会式・挨拶

13:00~13:15

調査報告

13:15~14:00

福岡市教育委員会生涯学習課・NPO子どもとメディア共働「子どもとメディアのよい関係づくり」事業  
平成27年度「高校生のメディアに関する意識と生活アンケート」調査報告

西園 佳澄 (福岡市教育委員会生涯学習課長)

乳幼児メディア接触調査：結果概要 (福岡市・北九州市・福津市・古賀市)

佐藤 和夫 (九州医療センター小児科 医長・NPO子どもとメディア代表理事)

基調講演

14:00~15:00

池上彰! ネット社会を斬る!

池上 彰 (国立大学法人 東京工業大学 リベラルアーツセンター教授)

東西冷戦によって生まれ、冷戦が終わって一般に公開されたインターネット。誰もが参加できるが故に、無限の可能性を秘め、世界に拡大した。

しかし、その一方で、サイバー攻撃や犯罪など深刻な副作用も報告されている。このネット社会を、現代史の中でどう位置付ければいいのか。そして、私たちは、ネット社会にどう向き合えばいいのか。参加者と共に考える。

トークセッション

15:00~17:15

ネットが人類にもたらしたもの ~子どもの育つ権利・学ぶ権利を考える~

池上 彰 (東京工業大学 リベラルアーツセンター教授)

村田 育也 (福岡教育大学教授)

内海 裕美 (日本小児科医会子どもとメディア委員会担当常任理事) 清川 輝基 (NPO子どもとメディア代表理事)

池上彰氏の講演を受けて、ネット社会において子どもの育つ権利や学ぶ権利が脅かされている実相を具体的に明らかにし、大人社会がどう向き合えばいいのかを語り合う。

懇親会

19:00~21:00

事前申込みが必要です。(※池上彰氏は、参加されません)

つながれ! 全国に広がる「子どもとメディア」の仲間たち

進行役 古野 陽一 (NPO 子どもとメディア専務理事) 登壇者 全国の仲間たち

あらゆる年代の子どもの成長・発達に電子メディアが強く影響を与え、未来に暗い影を落としています。このことに気づき、身近な場で活動をしている方々~「子どもとメディア」の仲間たち~が全国にいます。それぞれの実践と思いを語り合い、それぞれの活動がつながっていくことで、より暗く濃くなっていく影に立ち向かう力が生まれます。

昼食休憩

12:00~13:00

分科会

13:00~15:30

**A** スマホ時代の乳幼児の子育てを考える

- 座長** 佐藤 和夫  
(九州医療センター小児科 医長・NPO子どもとメディア代表理事)
- パネラー** 内海 裕美  
(日本小児科医会 子どもとメディア委員会担当常任理事)
- 佐伯 美保  
(ふくつ子どもステーションすてっふ代表理事)
- 船津 正行  
(緑ヶ丘第三幼稚園 園長)
- 原 陽一郎  
(筑紫女学院大学 准教授・NPO子どもとメディア常務理事)

この分科会では、まず、お母さん方の声や乳幼児アンケート調査の結果から「スマホと子育ての現状」を改めて確認しましょう。

そして「そもそも乳幼児の心身の発達にとってなにが大切なのか」という視点をきちんと踏まえた上で、「スマホや電子メディアに頼らない子育て」の具体的な取り組みを、多方面から話し合いたいと思います。

**B** 小学生のメディア過剰接触へのアプローチ

- 座長** 山田 真理子  
(NPO子どもとメディア代表理事)
- パネラー** 吉柳 佳代子  
(九州大谷短期大学講師)
- 黒田 可奈子  
(NPO子どもとメディアインストラクター)

子どもたちのメディア依存状態はどんどん低年齢化し、小学生は、まだ自分の気持ちを表現したりコミュニケーションを取ったりする言葉の獲得が不十分なままメディアの奔流に巻き込まれ、傷ついています。

私たちの活動から、演劇を使ったアプローチ「シアタープロジェクト」と小学生への啓発講演から見える小学生の実態を紹介し、一緒に対策を探りたいと思います。

**C** 子どもの身体の発達を歪めるメディア漬け

- 座長** 清川 輝基  
(NPO子どもとメディア代表理事)
- パネラー** 帖佐 悦夫  
(宮崎大学医学部教授)
- 伊藤 三千代  
(義理教諭)
- 辻 広明  
(プレイラボクロスポイント代表)

メディア漬けの子育て、ゲームやスマホに大量の時間を費やす生活で子どもの身体の発達には大きな歪みや遅れが懸念されている。

子どものロコモティブシンドローム(運動器障害)に警鐘を鳴らす宮崎大学医学部教授・帖佐悦夫氏(整形外科)の調査報告を交えて、ネット社会の子どもの育ちを考える。

**D** 現実に起きるネットトラブルに どう対応するか

進行役 NPO 子どもとメディア テクニカルサポート班

強大過ぎるスマホ・ネットの力は、子どもたちを容赦なくトラブルに巻き込んでいます。

現実にトラブルが起きたとき、学校はどのように対応すれば子どもたちを救えるのか。

発生頻度の高いトラブル事例を題材に、タブレット実習を含む実践的なワークショップ形式の講習会モデル(福岡県ネットパトロール講習会事業として2014年度、2015年度実施)を示します。